

天皇代替わりに対するフィリピン労働者階級の見解

天皇制の存続と永続化を糾弾する

アントニオ・E・パリス（フィリピン共産党（PKP—1930）書記長）

フィリピン共産党（PKP—1930）は、日本の天皇制の存続とその永続化を糾弾する。五月一日ナルヒトが天皇の地位に就いた。その直前の四月三十日父アキヒトは事実上退いた。

日本の天皇制は人類の奴隷制や未開な過去の遺物であり、人の平等および民主主義的諸権利の諸原則に敵対する。天皇はその家系が太陽の女神天照が降臨した化身である優れた家系であり当然敬われるべきであるとの神話をずっと唱えている。天皇制は日本ブルジョワジーの召使いである。

天皇制は特権を有する資本家階級が社会のなかで他のすべての下層階級を搾取する社会秩序を正当化する文化的宗教的突っ走り棒である。

新天皇就任式は公的資金で寄生的な一家の栄光を讃える。この寄生的な一家は何も生産せず労働もしない。この一家が行なうのは上流社会の催し物に華を添え、有名人のうわさ話のなかで異彩を放ち、もったいぶった儀式を行ない、納税者の費用で親切を分け与え、次代の天皇や皇族たちを産む。支配を続けるためにブルジョアジーに仕え、他の人びとはかけ離れ高みに居続ける。

天皇制は日本軍国主義の中軸である。天皇制は日本の軍産複合体を構成する財閥や総合商社に仕える。

天皇ヒロヒトは 最高位の戦犯

天皇制がより忌み嫌われるようになったのは天皇ヒロヒトが、ヒロヒトはアキヒトの父そしてナルヒトの祖父であるが、最も責任を負うべき第一級の戦犯である事実である。ヒロヒトは皇軍総司令部の最高司令官としてアジア太平洋戦争を遂行した。

国内でヒロヒトは労働組合を禁止し共産主義者の投獄や虐殺を命じた。ヒロヒトはブルジョワジーのためにこれらすべてを命令した。

まず、ヒロヒトは、一九三一年中国への侵略を、一九四一年インドネシアへの侵略を命令した。そして、一九四一年十二月八日にフィリピン、香港、マレー半島、真珠湾への同時攻撃を命じた。また、一九四二年二月にはフィリピンのバターン半島とコレヒドール島に追い込まれたフィリピン人と米軍への攻撃を命じた。

日本軍のフィリピン占領は三年以上に及んだがその間フィリピンの人びとの毎日の生活は地獄そのものであった。

街のそれぞれの通りに検問所が設置され、ありとあらゆるものの強盗や強奪が行なわれた。日本軍兵士たちは宝石類や個人的に気に入った物を探し求めた。手首からひじままでに二個あるいはそれ以上の没収した腕時計を誇らしげにはめている日本軍兵士たちを見るのは珍しくなかった。日本軍兵士たちは家々を急襲し食料や貴重品そして家畜を調達し人びとを獣のように取り扱った。少しでも反抗しようものなら殴打され殺される場合もあった。女性と女の子たちは連れ去られ、くり返し殴られ、輪姦された。そして「慰安婦」として畜生のように取り扱われ、日本人の強姦者たちが毎日毎日列をなした。

これらのすべての残虐行為の結果、人びとはフクバラハップ（抗日人民軍）に次つぎと参加し、占領軍に対して大きなダメージを与えたゲリラ戦争を展開した。

同時に、「カタカナ」と「ひらがな」の使用が学校と政府機関で強制され、学生や生徒そして勤労者たちは、天皇を象徴する「日の丸」旗へのおじぎ、永遠に続く天皇の治世を讃える「君が代」の唱歌を強いられた。

人びとは、天照大神と日本の国家宗教である国家神道の指導者で神の化身のヒロヒトについて、そして無敵のヤマト民族および「大東亜共栄圏」を統治するヒロヒトの栄光ある運命について教育を受けた。

フィリピン各地に米軍が上陸し、日本の戦争勝利の夢は砕け始めた。それと同時に日本軍兵士たちはフィリピンの人びとに対しそれまで以上に野蛮な行為を行ない始めた。

無分別な大量虐殺やフィリピン市民に対する極悪非道な行為がさらに一般的に容赦なく行なわれた。赤ん坊や小さな子供たちが生きてまま見つけられると単なるボール遊びであるかのように、空中に放り上げられ、落下する際に銃剣で突き刺された。

一九四五年二月、日本海軍はマニラ南部で米軍に対する最後の戦闘を行なった。日本海軍はあらゆるものを爆発させ燃やしつくし、一〇万人の市民をその地に閉じ込め激しい苦しみのなかでの死を強いた。

優れたドキュメンタリー映画『教えられなかった戦争：フィリピン編』のなかで、生き残った人びとがフィリピン各地で行なわれた戦時の市民に対する多くの大量虐殺や残虐行為について証言をしている。このドキュメンタリー映画を製作したのは同志高岩仁である。高岩は著名な映画監督でありかつ映画カメラマンで、〈活動家集団 思想運動〉のメンバーであった。

天皇制を葬り去ろう

日本軍国主義は、ヒロヒトと軍事的に直接帝国支配を行なう直近の親族たちに率いられ、アジア太平洋地域の二一〇〇万人の人びとを大量虐殺した。そのなかには一〇〇万人を超すフィリピンの人びとが含まれている。また、ヒロヒトは三一〇万人の日本人民を死に追いやった。

天皇制そして「日の丸」旗と天皇を象徴する「君が代」の使用は、一九四五年の戦争終結の際に終わりとするべきであった。

しかし、ヒロヒトとその近親者たちは戦犯として裁かれなかった。マッカーサー将軍は、天皇制を活用し日本の産業を復興させ、その後の冷戦期間に社会主義世界との闘争を行なう狡猾な計画を立案し実行した。

戦犯ヒロヒトは一度たりとも自分の罪を認めることはなかった。ヒロヒトの後を継いで天皇となったアキヒトも父ヒロヒトが犯した戦争責任を一切認めなかった。

そして、新しい天皇ナルヒトも同様の立場に立っている。

したがって、ナルヒトの皇位継承は、日本天皇制による幾千万人の戦争犠牲者への追悼の思いに対するゆゆしき公然たる侮辱である。

われわれは日本人民に訴える。事実を認識し目を覚まそう、天皇制のうわべを飾り立てようとする資本家支配の主流メディアの企みを拒絶しよう、歴史の歪曲を許すな、そして天皇制とあらゆる天皇制示威運動を完全に葬り去ろうと。(二〇一九年五月三十一日)

【訳＝沖江和博】

(見出し、小見出しは編集部による)

(『思想運動』1042号 2019年7月1日号)